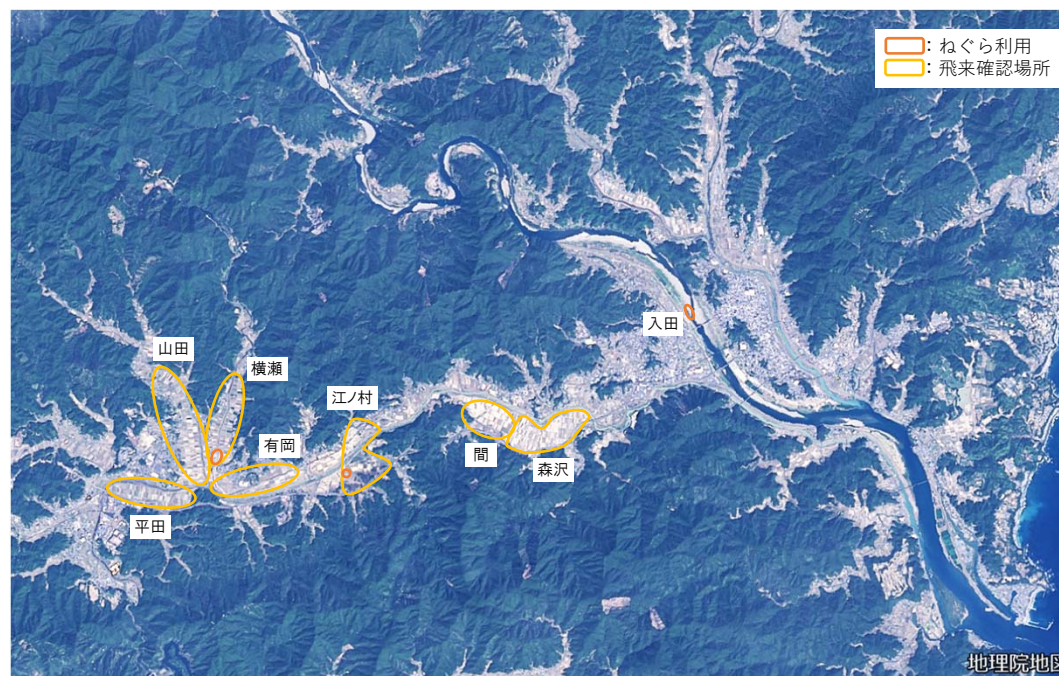


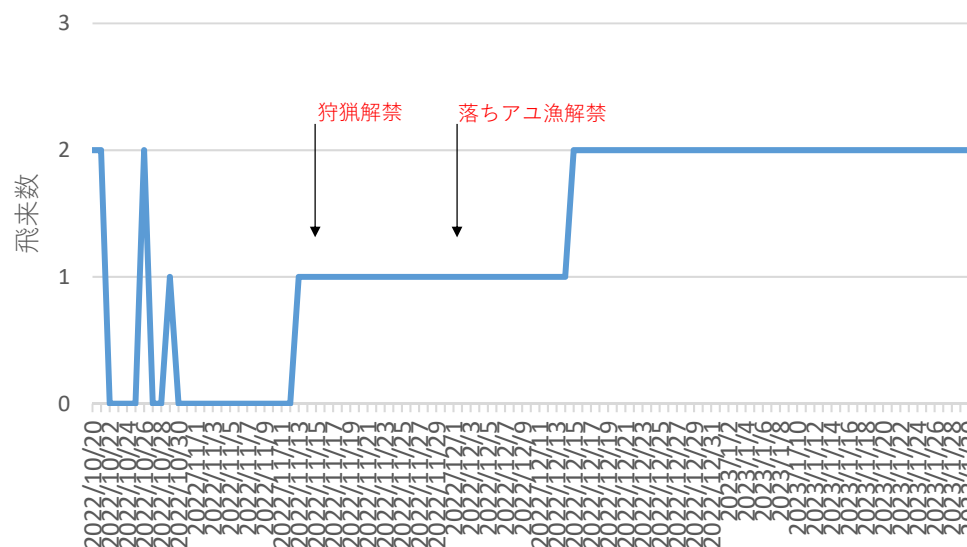
四万十川流域におけるツル類の飛来・生息状況について

今年度のツル類の飛来・生息状況

- 今年度は2022年10月20日にナベヅル2羽が森沢地区へ飛来し、今期の初飛来を確認しました。今年度の初飛来は記録の残る1972年以降、ナベヅルの記録として最も早かった記録（1996年10月20日）と同じ日でした。
- 今年度、ナベヅルがねぐらとして利用したのは、入田地区、横瀬地区、江ノ村地区でした。
- 入田地区では、夕方、砂州への軽トラックの進入や、猟犬を放して走らせる人が確認され、ねぐら利用の阻害要因になっている可能性が考えられました。
- ねぐら入りが確認された横瀬地区の横瀬川の河原は、閉鎖的な環境で川幅が20m程度しかありませんが、兩岸の堤防上は草が繁茂しているため、車両や通行者が利用できず、付近を走行する車両のヘッドライトの影響も受けない環境です。
- 猟銃の発砲音へのナベヅルの反応としては、発砲箇所とツルとの間に距離がある場合は、強い警戒を示すものの、飛び立ちは確認されず、距離が近い場合は飛び立ちは確認されました。
- ナベヅルの近くを人が歩いたり、ナベヅルを撮影しようとした場合に飛び立ちは確認されました。一方で、人が通過するだけの場合、飛び立ちは確認されませんでした。なお、会話の有無によりナベヅルの警戒度に差があり、会話がない方が警戒度は低いことがわかりました。
- 四万十つるの里づくりの会では、越冬の定義を12月に10日以上かつ翌年1月に10日以上確認した場合と定めており、今年度はナベヅル2羽が越冬したことになります。



空中写真:「空中写真データ」(国土地理院)(<https://cyberjapandata.gsi.go.jp>)をもとに作成



今年度のツル類の飛来状況

今年度のツル類の飛来・生息状況



四万十つるの里づくりの会 提供

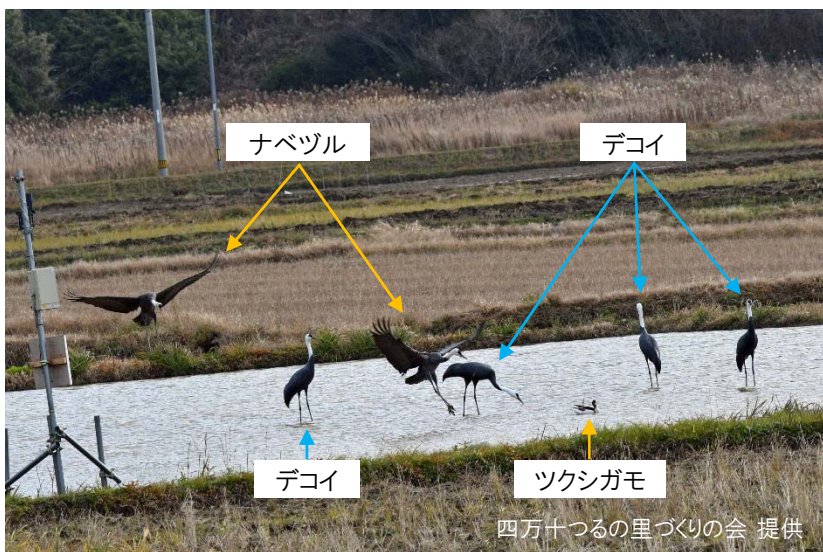
森沢地区に飛来したナベヅル2羽
(2022年10月20日撮影)



入田地区下流側の砂州で休息するナベヅル
(2022年10月21日10:53撮影)



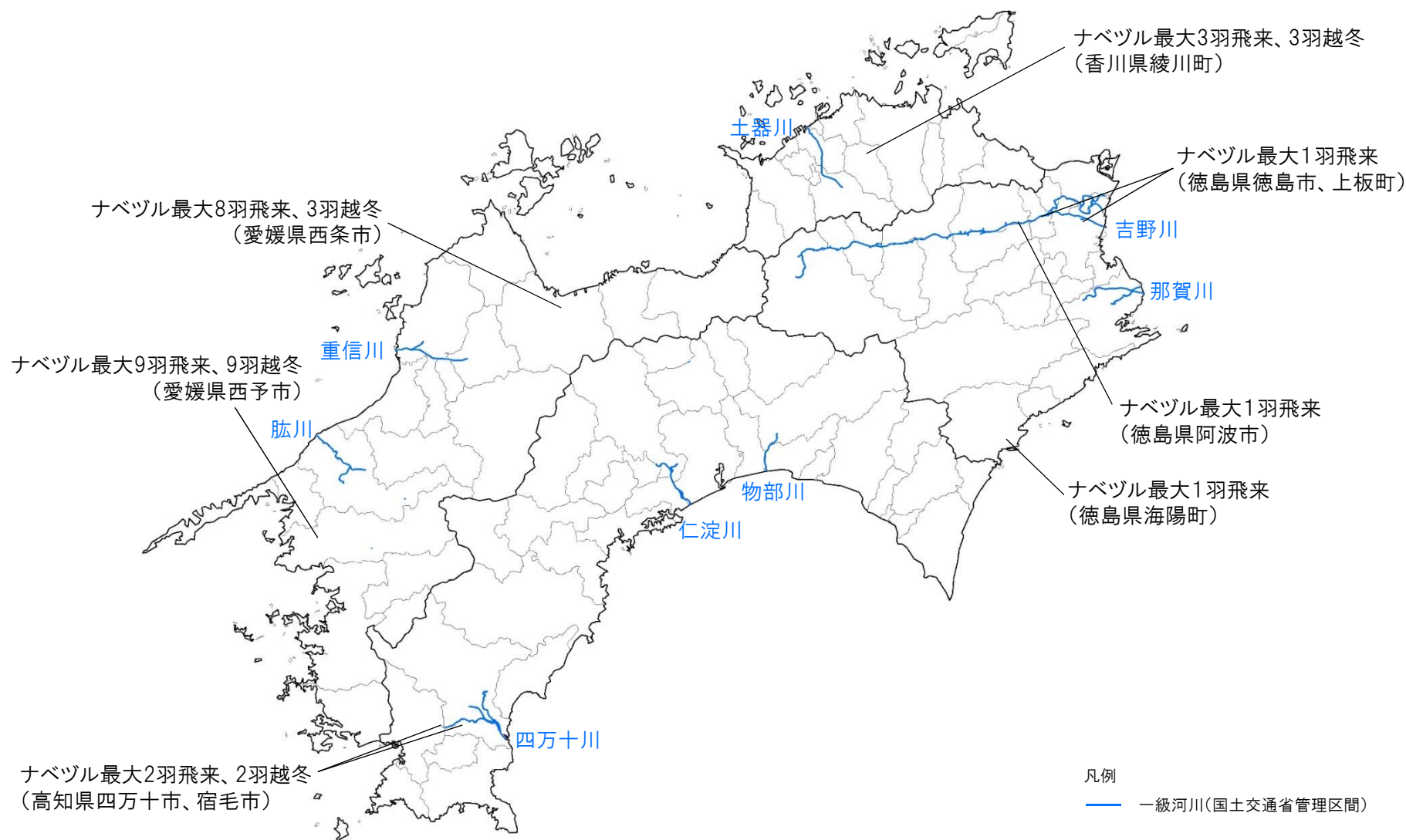
横瀬川の河原で休息するナベヅル
(2022年11月15日6:14撮影)



江ノ村地区の代替ねぐら箇所
に飛来したナベヅル2羽とツクシガモ
(2022年12月22日撮影)

(参考) 四国における今期のツル類の飛来状況

今期（2022年10月～2023年1月）は、四国において、徳島県徳島市・阿波市・海陽町・上板町、香川県綾川町、愛媛県西条市・西予市、高知県四万十市・宿毛市でツル類の飛来が確認されています。



四国におけるツル類の飛来・越冬状況(2022年10月1日～2023年1月23日)

「国土数値情報(行政区域データ)、(河川ラインデータ)」(国土交通省)(<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>)をもとに作成